



# 栃木県こどもモニター 意見の反映状況 (フィードバック)

第1回アンケート分  
実施期間：令和6年7月9日～8月5日

令和7年3月 栃木県

## テーマ

農業（栃木県のどんな農業を応援したいか、など）

## 該当質問

第1回アンケート Q1～6

## 県の考え・答え

とちぎの食と農業を応援する行動を取りたい割合が約8割もいることがわかり、県全体でとちぎの食と農業を応援する気運が高まっていると感じました。

どのような行動で応援していきたいかについて、県産農産物を選ぶことや農業体験等のイベントに参加する等はハードルが低く、行動に移しやすい傾向がありましたが、農業ボランティアへの参加、食や農業への魅力を発信することについてはハードルが高く、行動に移しにくい傾向がわかりました。

今回のアンケート結果を踏まえ、とちぎの食と農業の理解促進に向けた取組と、県民一人ひとりが食と農業を応援する「もう一步踏み出す行動」を促す取組を推進していきます。

## テーマ

地産地消・食育（「地産地消」「食育の日」の認知度）

## 該当質問

第1回アンケート Q7～11

## 県の考え・答え

### ▼食育の日、とちぎ地産地消の日について

「地産地消」は中学生以上の年代の8割以上が知っている一方で、小学生にはあまり知られていないことがわかりました。また、国が定める「食育の日」や、県が取り組む「とちぎ地産地消の日」を知っている人はどの年代も2～3割で、全体的にあまり知られていないことがわかりました。

### ▼地域の農産物の認知度や農業体験について

地域の農産物を複数個知っているのは、小・中学生が6割程度、高校若者以上が7割程度に留まり、地域の農産物をあまり知らない人にもっと知ってもらう機会が必要であることがわかりました。また、レジャー的な農業体験は多くの人を経験している一方で、農畜産物の生産過程を知ることができる農業体験の割合が低いこともわかりました。

県では、この結果に基づき、引き続き幼い頃からの食育の普及啓発に取り組むとともに、今後はターゲットに合わせた食育や地産地消推進の取組を検討していきます。

## テーマ

牛乳・乳製品（牛乳・乳製品を摂っているか）

## 該当質問

第1回アンケート Q12

## 県の考え・答え

小学生・中学生の約8割が「義務教育終了後も牛乳・乳製品をよく飲む・食べるようにしたい」と回答した一方で、「牛乳・乳製品をよく摂取している」と回答した高校若者・保護者は約6割にとどまりました。

摂取を心がける高校若者・保護者の割合は8割を超えることから、意欲のある高校若者・保護者の購入行動を促し、摂取につなげていく必要があることがわかりました。

このため、県では、関係団体と連携し、「ミルクの国とちぎ」の牛乳・乳製品の栄養価値やおいしさをPRするとともに、消費拡大につながる取組を実施して参ります。

## テーマ

外国人住民（外国人住民と仲良く暮らすためにどうするか、など）

## 該当質問

第1回アンケート Q13～15

## 県の考え・答え

日本人住民と外国人住民が、同じ地域で仲良く・助け合って暮らすためには、「コミュニケーションをすること（挨拶・会話・遊ぶ・交流するなど）」、「お互いの文化・習慣などを知ること（学ぶこと）」、「日本人と外国人の両方が地域のルールを守ること」が大切だというご意見を多くいただきました。

さらに、効果のある取組として、「お祭りや運動会など、お互いが参加しやすい地域の活動・イベントをつくる（増やす）」というアイデアもいただきました。

県内の外国人住民の数は令和6年12月31日時点で55,762人と、県民全体の約3%にまで増加し、ますます身近な存在になっています。

今回のアンケートの結果は、市や町にも共有しました。県内全体が、外国人にとっても日本人にとっても住みやすい地域となるよう、市や町とも協力しながら取り組んでいきます。

## テーマ

県立美術館（美術館で開催してほしいイベント、など）

## 該当質問

第1回アンケート Q16～19

## 県の考え・答え

美術館を訪れる際の心理的ハードルとして、「静かにしなくてはいけないと感じる」というご意見を多くいただきました。そこで、次年度開催のコレクション展「見て、聞いて、美術館」では、館内での会話を推奨する試みを行います。また、内容についても「子ども向けではないと感じる」というご意見も多くいただきました。次年度は企画展も、デジタルアートや絵本など、例年に比べると、お子様連れの皆様にも楽しんでいただける内容をご用意しました。いただいたご意見をふまえ、今後も様々な取り組みを実施していきたいと思えます。

また、美術館で開催しているイベントについて、約9割もの方が「知らなかった」と回答されています。回答いただいた、「イベント情報収集を行っている媒体」を参考にして、今後の広報計画に役立てたいと思えます。

## テーマ

とちぎ笑顔つぎつぎカード（使用頻度や希望協賛店、など）

## 該当質問

第1回アンケート Q20～23（保護者）

## 県の考え・答え

70%を超える多くの人にとちぎ笑顔つぎつぎカードを使用していること、利用先については小売店や飲食店などが多いことが分かりました。一方で、制度の周知が不十分との意見や、さらに使いやすくなるよう対象施設や業種を拡大するなど、サービスの拡大を望む声もありました。

県では、これまでの紙のカードに加えてLINEでも利用できるよう利便性の向上を図っているほか、毎年、利用店舗の拡大に努めています。

今回いただいた要望などを参考に、引き続き一層の取組を進めていきます。

## テーマ

子育て施策の認知度、結婚・出産についての考え

## 該当質問

第1回アンケート Q20～22（小学生・中学生）、Q20～25（高校若者）、Q24～25（保護者）

## 県の考え・答え

少子化の原因については主に経済的負担や仕事と子育ての両立などを課題と感じていること、希望する結婚や出産の時期について様々なイメージを持っていること、県の子育て支援事業が十分知られていないことが分かりました。

このため県では、第2子以降の保育料の無償化などにより経済的負担の軽減を図るほか、結婚・出産といったライフイベントについて考える冊子の作成、県の子育て支援施策をPRする動画の作成・配信などに取り組んでいます。

今後とも、こどもや子育てに関する課題の解決に向け、様々な取組を行っていきます。